

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をユニット会議で唱和し共有している。	理念は代表者が創業時に、「高齢になったらこういう生活をしたい。」と自分に置き換えて創ったもの。その想いが伝わるよう掲示とユニット会議での唱和にて、職員への浸透を図っている。一方、15年の歩みで培った経験と時節の流れを踏まえ、見直しも検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りを招待したり町の文化祭や敬老会等に参加させていただいている。	利用者の敬老会参加、文化祭への作品出展を支援し、保育園からは運動会やクリスマス会に招待されている。祭りで来てもらえる獅子舞も近隣の同法人グループホームの方々と観覧し、ホーム横のグラウンドで、毎年開催のよさこいソーラン大会の見学も恒例となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方と交流する機会を多く持てるよう努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の状況報告や事業報告を行い、随時意見交換を行っている。	会議は、家族代表、区長に、行政・包括・社協の順送り参加による構成で、隔月開催。入居状況に加え、花見や夏祭りなどのホーム行事報告、ノロウィルス・避難訓練・AED研修など時節に応じた議題で、意見や助言を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも毎回参加していただいている。	行政担当者には運営推進会議にてホームの現状を伝え、日頃は利用者入居相談や介護認定更新の申請代行等で連絡を取り、良好な関係構築に努めている。今年度の身体拘束適正化委員会も行政通達で立ち上げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から利用者が自由に出入りできるよう玄関は施錠せず、外出しそうな様子を察知したら声かけしたり一緒についていく等し安全に配慮しながら自由な暮らしを支えるようにしている。	玄関施錠は日中していなく、気ままに出る方もおれば、ともすれば自分が出る事で職員に心配をかけたたり、付き添う手間を思ってしまう、自重されているのではないかと感じる場面もある。つい職員側の都合を先行してしまう傾向があり、それが利用者拘束につながるのではないかと、ユニット会議で省みている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で話し合い、研修会等にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前例がないこともあり、個々で理解出来ている職員もいるが、全ての職員の理解は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様及びご家族の意見、要望を全職員が共有し日々のケアに活かしている。	利用者には地元の方が多く、頻繁に来て頂ける家族も多い。訪問時には利用者の近況を伝え、一緒に食事や入浴、居室でお泊り頂いてもかまわなく、家族が利用者を思う気持ちにも応えられるよう努めている。リビングの仏壇も家族からの提案で置いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で随時意見を聞き運営に活かすよう努めている。	毎月のユニット会議に代表者、管理者に加え元行政職員の非常勤職員も参加し、その知識と経験から貴重な意見や助言を頂いている。代表者がいることで、設備の充足や処遇改善など、要望や提案が直接反映され、気付き・発見・提案レポートも運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に新しい情報を取り入れられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談することでご本人のご要望を聞きだし不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时よりご家族のご要望を把握し不安を取り除くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の望む生活を見極め他事業所と連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の能力に応じて役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者から状態を記載したお便りを送付している。受診介助もご家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医を継続し、行きつけの美容院にも行き続けている。	家族以外にも面会に来てもらえる友人を持つ方、今も図書館へ足を運ぶ方、ホームは通所事業所も併設しており、夫が通所利用者として来る方もいる。家族に行きつけの美容院や外食、墓参り等に連れてもらえる方々など、それぞれ、入居前からの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者には職員が間に入り橋渡しをしている。関係性が悪くなった利用者が出てきた場合はさりげなく食事の席替え等をして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中であれば退所以降もお見舞いに行ったり、亡くなられた時には葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ヒアリングシートを利用し利用者様及びご家族の希望、意向の把握に努めている。	自分がしたい事や嫌な事をハッキリと口にできる方が多く、進んで洗濯物をたたんだり、茶碗洗いをする方もおれば、以前好きだったぬり絵はもうしないと言う方もおり、それぞれ思い通りに過ごせるよう支援している。各利用者には1人で2人を受け持ち家族との窓口になっている担当職員がおり、毎月のユニット会議でケア状況を報告し共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また居宅のケアマネジャー、サービス事業所等から情報収集し、出来る限り経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを知り、ご本人のしたい事やできる事を本人のペースで行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ユニット会議のモニタリングの実施や、ご本人やご家族の意見等をその都度確認しケアプランの修正や追加を行っている。	毎月のユニット会議で、各担当職員からの受け持ち利用者の課題や目標の進捗状況と家族情報を聞き、更なるケア方針の検討をしており、介護計画はその経過を踏まえて健康維持管理を基調に作成し、基本1年毎に更新している。また体調・症状等に変化があれば随時見直している。	計画は、健康維持管理のみならず、また更新期間も特定せず、利用者が望む暮らしぶりに向け、担当職員の思いを基調に皆の意見や家族の意向が反映する内容も加えられることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や三則表に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や受診同行等、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの活用や町の図書館に定期的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人家族の希望を聞きこれまでのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。	主治医は家族・本人の意向で決め、通院や外来受診へは基本家族付き添いだが、家族の都合によってや精神科へは、必要に応じて職員も付き添い、日常状態を直接伝えている。ホーム提携病院やかかりつけ病院からの訪問診療もあり、適切な医療支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要があれば相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時した際は情提供書で情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応及び看取りの指針に基づき事業所の対応方針を家族に説明している。	毎月のモニタリングや食事摂取量の減少など日常の関わりの中で重度化傾向が見られれば、家族に診察をお願いし、診断結果に応じて当ホームでできる支援や提携病院、特養施設を紹介している。過去、玄関横の事務室を居室に変更して最後を見送った事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催している。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の対応マニュアルを整備してある。	症例別の対応マニュアルを配備し、「ヒヤリ・ハット報告書」は毎月のユニット会議で検討し、事故予防や再発防止につなげている。毎年消防署員によるAED・救急救命講習を実施しており、新人職員には消防署で開催の講習受講を必須としている。	マニュアルに沿った症例毎の内部研修実施も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関の医師は往診に来ていて日頃から医療に関する事を相談させていただいている。	提携病院のほか入居前からのかかりつけ病院にも訪問診療に来て頂いており、特養施設とも当該施設開催の研修・勉強会等に参加し交流を持っている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したもとなっている	夜間は各ユニット1名の勤務体制であるが多くの職員がグループホームから近距離に居住しており緊急時には迅速に駆けつける体制を取っている。また緊急時に円滑に連絡が取れるよう緊急連絡網を整備してある。	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制。緊急時は24時間対応の提携病院に連絡や救急通報とともに、家族、管理者、元行政の非常勤職員、代表者に連絡する手順で、管理者がホームに残り、搬送に同伴した職員を代表者が近郊居住職員が迎えに行く体制である。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回行っている。	行政広報のハザードマップや避難場所を確認し、年2回日中と夜間、火元想定場所も毎回変え、防災業者の協力で通報動作確認や消火訓練を実施。ほか緊急連絡網も備えている。	災害対策に限りはないため、消防署立ち会いの避難訓練も取り入れたり、当地に起こりうる災害を想定したより具体的現実的なマニュアル作成と、それに沿った研修実施も望まれる。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	緊急連絡網、マニュアルが整備されている。	食料・飲料等の3日分相当を賞味期限を含むリスト化管理をし、オムツ等の介護用品、ガスコンロや懐中電灯等の防災品も備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持った対応をするよう心掛けている。	ユニット会議での検討をはじめ、日頃担当職員から聞く利用者情報を基に、職員は当地の慣習や習慣等に習った家庭的な言葉かけやケアサービスで、利用者1人ひとりの症状や個性に応じた対応をしている。	利用者が望む暮らしの具現化に向け、研修等さらなるケアサービスの向上に向けた取り組みにも期待したい。
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はできる限り本人の希望に沿って働きかけている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿ったケアができるようにケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際には外出用の衣類を利用者と選び着用している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳等できる利用者様にはしていただいている。	献立・調理は専門職員が受け持ち、利用者も無理のないように手伝っており、昆布巻きなどのこだわり調理もある。利用者で行くスーパーでの3日分の買い出しの他に、菜園収穫物、鮮魚店からの直送、家族・職員からのお裾分けもあり、旬物は常に食卓にあがる。職員も一緒に味わい、バーベキューや職員が作る特性誕生日ケーキも好評である。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録したり栄養バランスを配慮しながら献立を立てている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできている方については見守りしている。できない方については夕食後に介助している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけパターンをつかみ介助が必要な方についてはトイレ誘導をしている。	自立して排泄している方が多く、必要な方だけに排泄チェック管理やパット・紙パンツ類の適切な介護用品を提供している。便秘対策は、あまり服薬には頼らず、野菜・乳酸菌の摂取や体操に加え、マッサージもするなど、本来の能力を引き出す支援に取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて食事、水分、内服の調整等で便秘にならないように援助している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の利用だが、希望があれば対応したり曜日の変更等をしている。	入浴は、日曜を除く午前中に週2回以上を目安にご利用頂いている。タオル類はホーム側で全利用者分を個別に配備して使用しており、石鹸も指定されている方もいる。入浴剤の工夫に加え、湯加減や一番風呂等のご要望にも応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンをつかみ日常生活に支障が出ないようゆっくり休んでいただいている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年より薬局と協力して服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や貼り絵などいろいろ楽しい時間が持てるよう援助している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや花見、紅葉狩り、地域の行事などに出かけられるよう支援している。	毎年、花見や観光地、外食等にバスをチャーターしたり、ホームでも数回に分けて皆で外出している。個別でも、毎朝の散歩や日用品の買い出し、自宅の様子を見に行く支援もしており、デイサービスの送迎に利用者も同乗し、そのままドライブになる事もしばしばある。誕生会では個別に食べたい物や行きたい所をお聞きし、その方専用の外出支援もしている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を自由に所持し使用している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに努め、ひな人形やクリスマスツリー等の飾り付けをし日頃から季節感を感じられるよう工夫している。	リビングから宝達山が一望でき、採光良く、除湿・加湿・温度管理に、窓開けの自然換気も随時行っている。家族要望で置いた畳敷き小上がりにある仏壇に毎日経をあげる方がおり、後ろでは他の利用者も手を合わせている。利用者作成による高レベルなお花紙作品もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にソファ席を準備してあり思い思いに過ごされている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に利用者の作品や家族の写真などを飾り付けし暖かみのある居室作りをしている。	居室は全室洋室でベッドが備え付け。危険物以外、小型テレビや整理ダンス、ハンガーラック等々、それぞれ馴染みの物を持ち込み居心地良く過ごされているが、ほとんどの方々は、日中、リビングで多く過ごされている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの案内板を大きく分かりやすいように表示している。		